

仙台市公民館運営審議会議事録

(令和3年5月定例会)

○ 日 時

令和3年5月13日(木) 午前10時00分～11時45分

○ 会 場

仙台市生涯学習支援センター 5階 第1セミナー室

○ 出席者

〔委員〕 相澤雅子委員、安藤歩美委員、市瀬智紀委員、大内幸子委員、幾世橋広子委員、
後藤武俊委員、齋藤和平委員、佐々木稔委員、佐藤正実委員、柴田真理子委員、
牧靖子委員、松田道雄委員

〔事務局〕 教育委員会：教育長 福田

生涯学習支援センター：センター長 木田、センター次長 千葉、主幹兼事業係長 福本

青葉区中央市民センター：センター長 佐々木

宮城野区中央市民センター：センター長 石川

若林区中央市民センター：センター長 湯村

泉区中央市民センター：センター長 内海

生涯学習部長 筒井

生涯学習課長 田中

地域政策課長 市川

公益財団法人仙台ひと・まち交流財団：市民センター課長 古城

〔傍聴人〕 なし

○ 資 料

次第

資料1：仙台市市民センター事業の調査研究報告書の構成について(案)

資料2：今後の進め方について(案)

資料3：事業評価シート(まとめ)

資料4：事業評価に係る補足説明資料(令和2年度参加者振返り)

資料5：本日のグループ討議の進め方について

参考資料1：仙台市公民館運営審議会委員名簿

参考資料2：関係職員名簿

参考資料3：仙台市教育構想2021

参考資料4：令和3年度 市民センター事業について

1 開 会

(資料の確認)

事務局： 本日は、12名の委員の皆様にご出席いただいております。仙台市市民センター条例施行規則第10条第3項の規定により委員の過半数である8名以上の出席を満たしておりますので、有効な会議として成立しておりますことをご報告申し上げます。

2 挨 拶

(教育長挨拶)

事務局：ここからの進行は会長にお願いいたします。

会長：この審議会は原則公開になっておりますが、傍聴の希望はございませんか。

事務局：本日はございません。

会長：次に議事録の署名委員です。名簿順で、前は佐々木委員でしたので、今回は佐藤委員にお願いいたします。よろしくお願いいたします。

3 協 議

(1) 仙台市市民センター事業（子ども参画型社会創造支援事業）の調査研究について

- ・事務局から、資料1により市民センター事業の調査研究報告書の構成（案）について、資料2により今後の進め方について提案があり、承認された。
- ・本日の協議の進め方に関して、評価対象事業ごとに3つのグループに分かれて議論を深めることが事務局から資料5により提案され、承認された。
- ・上記承認を受け、グループ討議が行われた。討議終了後の議事については以下のとおり。

会長：では、全体で共有したいと思いますので、第1グループからそれぞれご説明をお願いします。

事務局（第1グループ担当職員）：第1グループは、「青陵インパクト」と、鶴谷中学校と連携して行われている「つるっこ画樹園」の取組みについて話し合いました。

まず、評価できる点として、子ども達の視点が面白いという意見が出ました。

「青陵インパクト」では、青陵中等教育学校は受験をして入る学校ですので、メンバーはその地域で生まれ育った子ども達だけではなく他の地域から通ってくる子ども達が多い。地域の小学生との交流をもっと持ちたい、地元の方ともう少しつながって何か一緒に活動したいといった視点は、そのような子ども達ならではの、とても良い。

鶴ケ谷の「つるっこ画樹園」でも同様な意見がありました。鶴ケ谷は、昔の古い住宅等のイメージがありますが、また分譲が始まったりして新しいまちへと生まれ変わっているところです。そういった時代の流れの中で、中学生が地域の方をつなげる役割を市民センターの方と一緒に担っているところがとても良い。新しいものだけに注目するのではなく、なくなりつつあるもの、変わっていく前のものなどにも注目をして取り上げ、地域の方をつなげる役割をしており、目の付け所、視点が面白

いという意見が挙がっていました。

一方、改善に向けた提案では、どちらの事業も一つの学校と実施しており、他の学校などの人は活動したいと思っても参加できない。鶴ヶ谷では、現在美術部という一つの部活動の子ども達だけが参加していますが、さらに参加者の範囲を広げていくこと、他の部活動や他の学校、他の団体との連携も考えられるのではないかと。

また、「青陵インパクト」では、カードゲームを作っていますが、それに他の地域の名前を付けて、例えば、「台原インパクト」「長命ヶ丘インパクト」「川平インパクト」といった形にして自分のこととして考えやすいようなものにアレンジしていくと、作り方のノウハウはすでにできているので、使い方についてももう少し色々と考えていけるのではないかとという意見もありました。

やはり、「子どもが動く」と大人が動く。子どもは地域をつなげるという役割を確かに担っているというお話をいただきました。

会長：ありがとうございました。2 グループお願いします。

事務局（第2グループ担当職員）：第2グループでは「チャボ！」について話し合いました。「評価できる点」と「改善に向けた提案」と2点に分けて議論しましたが、「チャボ！」については、ほぼ「評価できる点」であったことを最初にお伝えします。

評価できる点としては、まず、歴史の長さが安定して事業が続けられていること。それは、多様な団体との協働ができており、異なる学校間や異なる年齢間の子ども達同士の意見交流ができていくことから可能になっている。また、広報の工夫もされており、チラシやホームページの他、おそらく一番効果的なのが、参加者同士が縦と横でつながっていること。先輩から後輩という縦のつながり、自分の友達を誘うといったお互いの横のつながり、いわゆる口コミで子ども同士がつながっていて、参加者が次々につながっていくところが良いという意見がありました。

また、コロナ禍の中でも工夫して活動していること。間接的な交流としては、高齢者との手紙のやり取り、直接的には、畑での活動等で、若林区中央市民センターの他の事業の参加者とも交流ができていることが良かったのではないかとという意見もありました。

「改善に向けた提案」ですが、良い点を他の館の事業に波及効果として広げられればさらに良いのではないかと、という意見がありました。伝えていくべき良い点としては、まず、「チャボダンスソング」。また、活動の内容が子どもにとって取り組みやすいプログラムであること。掃除やビーチクリーン、手紙書きといったところから始めることで、子ども達の役に立ちたいという気持ちを活かし、活動を通じて地域が好きになって、子ども達の中から活動が広がっていく良さがある。ただ、それには若林区中央市民センターの社会教育主事の指導者としてのリードがあつてこそであり、そのスキルを伝えることは難しいところもあります。他の「子ども事業」の参加者との交流により（今はコロナ禍で難しいかもしれませんが、何らかの形で）、「チャボ！」の良さを他の事業に伝えられることができればさらに良いのではないかとということで意見がまとまりました。

事務局（第3グループ担当職員）：第3グループでは「南光台をもっと元気に委員会2」について話し合いましたが、結論としては、南光台の再発見につながるとてもすばらしい事業であったということです。「評価できる点」としては、様々な世代との交流につながっていたということ、情報収集をする過程での協力につながっていたこと、大会当日は中学生が地域に出て活躍する場になっていたこと、

また、かるたの作成を通して自分の地域を知るきっかけになっていたということなどが挙げられました。

さらにこれをより良い取り組みにするために、「改善に向けた提案」としていくつか意見が出ました。まず一つは、かるたを作成する過程、情報収集をする過程でさらに多くの人を巻き込んでいくことでより良い事業になっていくのではないかとということです。また、成果物としてのかるたをさらに活用していくことも大切ではないかという意見も出ました。かるた大会だけで終わらせることなく、機会あるごとに展示や発表をしていくことで、さらにこういった情報もあるのではないかとというようにかるた自体が発展し、その発展のプロセスを通してさらに多くの人を巻き込んでいくことにつながっていく。そうしたことにより、さらに様々な世代の人達が南光台の歴史を自分の地域として知り、それが地元学の発展や南光台の魅力を再発見することにつながっていくのではないかとという意見がありました。

会長：報告、どうもありがとうございました。人口減少社会や少子化社会など抽象的な言葉で言われますが、仙台市でも子どもの数が減っていきます。そのような状況の中で、改めて市民センターで「子ども参画型社会創造支援事業」に取り組んでいることの意義といったものを話し合いの中で深められたのではないかと思います。

では、最後に前回と同じように、各委員の皆様方から今日の深め合いの全体を総括してご意見をいただければと思います。では、第1グループからお願いします。

委員：全体的に、地域にとって非常に良いアウトプットが出ているのではないかと思います。「青陵インパクト」であればカードゲームを作る過程、「つるっ子画樹園」であれば地域に対してのイベント、「南光台をもっと元気に委員会2」のかるた大会のような地域が盛り上がるアウトプットで、それを作るノウハウのようなものも確立してきているのではないかと思いますので、それをそのままにしておくのは非常にもったいない。今は、学校を限定したり部活動を限定して活動しているようですが、それをもう少し横に展開して、色々な地域でイベントに活用してみたり、他の地域でもこのような取り組みができないだろうかと様々な主体を巻き込んでいくことが今後必要になると思います。一つの学校や一つの地域などに閉じずに広がりのある形で、ぜひ市民センターとして事業を継続していってもらいたいと思います。

委員：事前に送付されてきた文書を見たときは読み切れない感じがしましたが、このように皆さんとお話することで形にしていけることは、やはり良いことだと思いました。子どもに関しては、今仙台でも、不登校の子が多いなど色々な問題がありますが、それには自己肯定感が非常に大切です。市民センターが子ども達に自己肯定感を与えられる場所であれば良いと思います。

委員：グループ討議は今回初めてだったのですが、非常に良い形態で、今後も活かしていければ良いと思いました。私は、「青陵インパクト」と「つるっ子画樹園」について皆さんとお話したのですが、新設される「公共」という授業にも関わる、非常に大きなステップの一つになるのではないかと感じました。子どもを主体にするということが一つのポイントで、大人、行政、市民センターが口を出し過ぎず認めながら褒めていく、寄り添うように関わっていくことが本当に大切だと思いました。少子化の中で、子どもと子育てを取り巻く状況ということが議論されていますが、私は少子化にもメリッ

トはあると思っています。子どもが少なければ、一人ひとりに対して丁寧に関わり人生経験をサポートしていけるのではないかと。私達大人が、市民センターというすばらしい機能を生かしつつ子どもに関わっていければ良いと思います。

委員：私は、「つるっこ画樹園」に視察に行つて非常に感動したのですが、中学生の子ども達の視点がとても面白いものでした。私は地域で活動をしているのですが、地域だけでは思いはあつてもなかなかできないし、学校はなおさら色々なことができない。そこに市民センターが入ると、その力はとても大きく、市民センターと学校と地域が協働して子ども達を育てる。子ども達が活動することにより、不安を抱えながらも成功し、自分達は地域で役に立っているし、これからも担っていくんだという自己肯定感を持つようになることが顕著に見えてきます。市民センターのこの力はとても大きいと思いますので、これからもぜひ、「子ども参画型社会創造支援事業」に取り組んでいってほしいと思います。

委員：第2グループで「チャボ！」について3人で意見交換しました。「チャボ！」は、歴史が一番長く、発足当初はおそらくあつたであろう色々な問題をクリアしつつ、現在発展的に様々なことができるようになってきたのではないかと思います。そういったノウハウは、子ども達自身が共有しているとのことです。他の拠点館等で実施している事業に対して情報提供できることがたくさんあるのではないかと思います。他の事業は発足してから3年程度で、今は発展途上にあつて色々なことを試行錯誤しているのではないかと思います。そのような事業の参加者に対して、「チャボ！」に参加している子ども達から声を掛けたり、打ち合わせなどで意見交換することにより様々なことが分かってくるのではないかと思いますので、他の事業の子ども達との交流をぜひ進めていっていただきたいと思っています。

委員：私は、視察は「チャボ！」と「南光台をもっと元気に委員会2」に参加し、今回は「チャボ！」のグループに入りました。住んでいるのが「チャボ！」の活動地域なので、活動を目にすることがあるのですが、子ども達がいつも生き生きとした表情なのが印象的です。12月に視察の際、コロナ禍で子ども達の活動が制限されているが、どのような状況なのだろうと思つて行つたのですが、色々な活動がきちんとできていることに少々驚きました。また、子ども達が他の学校の児童や中学生と、情報交換したり、分からないことがあれば教え合つたりしながら交流していたのが、学校や家庭と違った良さではないかと感じました。歴史の長さということがこれまでも挙げられていましたが、これまで続いてきたのは、良いところは残し改善すべきところは改善して今の安定した事業につながっているのではないかと思います。畑での収穫の様子も見せてもらいましたが、地域の方達がとてもうれしそうに活動していたのが印象的で、子ども達の交流の場を見られたのも良かったです。

委員：私も「チャボ！」のダンスソングのインパクトが強く、頭から離れないほどです。

この事業の活動地域では、地域との協働の歴史や団体数が厚く、子ども同士も他学年、別の学校、さらに中学生との交流によりつながっていて、それが循環しているところがすばらしく、ポイントはここにあるのではないかと思います。市民センターの担当者や参加する子どもが替わつても、地域が子ども達を離さない。そのような関係を永く作っていくことが重要なのではないかと、本日皆さんとお話ししながら感じました。その背景には、震災復興による地域の変容があり、震災復興からの反発

力といったものがこのような強い関係を生んでいったということを後で教えていただき、私として理解できたのが今日の収穫です。

会長：第3グループお願いします。

委員：私は「つるっ子画樹園」と南光台の「巨大かるた大会」の視察に参加しました。

「巨大かるた大会」はとても寒い日でしたが、楽しい雰囲気巻き込まれていきました。個性あふれる中学生達が力を合わせて進めていたのがとても印象的でした。複数の学校の子ども達が集まって、様々な意見を出し合いおそらく時々ケンカもして、本音を言いながら活動を考えられる場所として市民センターが活用されているのだろーと思いました。そのため、館長さんをはじめ市民センターの皆さんがどのように中学生と関わっているのか見てみたいと思ったのです。実際に「かるた大会」が始まると、小学生の子がルールが分からず守れない場面があったのですが、それを見た中学生がその場で皆で考え相談して伝えるというように臨機応変に対応していたところも良かったです。子ども達が身に着けることができた力として、大勢の人を動かすのは非常に難しいので、シミュレーションを重ねてもその場になると学ぶことが色々あって、どのようにすれば自由に動かせるのかなど、コミュニケーション力のアップにつながったのではないかと思います。振り返りのビデオでも、メンバーの多くが、参加者の立場で企画を考える大切さを学んだ、コミュニケーション能力がついた、南光台のことを知ることができたということを述べていて、良い事業だったと思います。

委員：「南光台をもっと元気に委員会2」の視察に参加して、本日もそちらのグループで話し合いました。

私は、市民センターが各地域に開かれた拠点になって、そこで「子ども参画型社会創造支援事業」が有効に実施されるとまちが本当に活性化するというのを、各グループからの発表を聞いて感じました。「子ども達が動く」と先ほど言われましたが、まさにそういうことで、子ども達が率先して動き、大人達は少し離れてサポートするという関係性がまちの活性化につながり、市民センターがその拠点として今後ますます重要な役割を持つようになるのではないかと思います。

委員：南光台は65年位前に造成されたのですが、地域の特色や名所等をはかるたという形にしたことは、大変すばらしいと思います。このかるたを今回のかるた大会で終わらせるのは惜しいので、子どもや小学校、中学校だけではなく老人クラブ、社会福祉協議会、商工会といった様々な団体にも貸し出し、内容を見直しながらかつていくということを、市民センターが主体となって行ってもらえればと思います。

委員：グループ討議の後の他のグループの発表を聞きながら、全体としてどういうことが考えられるのかと思いながら、皆さんのお話を聞いていました。子ども達自身が地域の情報を集めてイベント化することが非常にインパクトがあり、そのような形は様々な地域で実施していけるのではないかと思います。南光台であればかるたですし、「つるっ子画樹園」であれば絵画です。美術部の子が地域の絵を描くことで、それを起点に地域の人巻き込まれていき、色々な情報がまた集まるという波及効果があるのではないかと思います。それを支える職員さんには、学校との調整等、表には見えないご苦労などあると思うので、そういったことを職員同士あるいはセンター間で情報交換して、ノウハウを伝えていってもらえるとより広がっていくのではないかと思います。

会長：皆様、どうもありがとうございました。この会議での我々の話し合いがそのまま調査研究報告書にまとめられていくということで、非常に具体的で深い評価に係る議論ができたのではないかと思います。

4 報 告

(1) 仙台市教育構想2021について

事務局から、参考資料3により上記構想の概要について説明があった。

(2) 令和3年度市民センター事業について

事務局から、参考資料4により、令和3年度の事業の具体的な計画について説明があった。

会長：ありがとうございました。本日、予定していた議事は以上ですが、皆様から何か質問などございますか。なければ事務局にお返しします。

5 その他

事務局から、齋藤和平委員が退任されることが紹介され、同委員から挨拶があった。

以上

会 長

会議録署名委員
